

「変化を先取りし、自ら 新日鉄グループへ

新日本製鉄(株) 代表取締役社長 三村 明夫

連結経営の実力が向上し、 高収益を継続

皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もより良い製品とサービスの提供を通じて皆様のお役に立つことができますよう、社を挙げて取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、世界経済が成長を継続する中、今年度の当社の連結経常利益は6,000億円と、昨年度の5,976億円を上回り4年連続で過去最高を更新できる見通しです。日本で上場する事業会社で第7位の利益レベルとなり、わが国経済の中で、一定の地位を安定的に担えるようになったことを大変うれしく思います。

このような成果を実現できたのは、お客様との長期的な信頼関係の下、グループ各社の頑張りにより連結経営の事業基盤が格段に向上したこと、製鉄事業において新規設備の円滑な立ち上げと高位安定生産を実現したことなど、さまざまな要因によるものです。

世界経済の成長の果実を 取り込む「グローバル・ プレーヤー」への変革を

今後の世界の鉄鋼需要を考えると、中期的な需給変動はあるものの、長期的には、BRICsを含めた世界経済の成長に伴い、鉄鋼需要が継続的に増加し

ていく「新しい鉄の時代」が到来したと確信しています。

一方、世界的な業界大再編の中で、当社が生き残るためには、生産規模の拡大を含め、持続的な利益成長による企業価値の拡大を図ることが必要です。

このためには、世界経済の成長の果実を自らの利益成長に取り入れることができる、いわゆる「グローバル・プレーヤー」へと変革していくことが必要です。

これまで当社は、世界各国に展開するお客様からの要請にお応えし、日本をベースに鋼材の直接・間接輸出を行い、当社製品の約50%、利益の約60%が世界経済の伸びと直結する「グローバル・サプライヤー」でした。しかし、海外での利益成長の機会が大きなものとなる中、海外での鉄鋼事業を積極的に展開する「グローバル・プレーヤー」への脱皮を図ることが必要で、現在米国、ブラジル、中国のCGL(溶融亜鉛メッキライン)増強やタイでの一貫製鉄所の事業化などを検討中です。

一方、「技術」を中心とした「総合力」を武器に、高級品分野をコア・マーケットとするという従来の方針に変更はありません。現在、世界の高級鋼需要2億4,000万トンのうち、当社は世界で10%、アジアでは20%のシェアを有しています。今後、当社の持つ「総合力」を武器にお客様のニーズにお応えし、規模拡大に努め、併せて研究開発、製鉄所での製造実力の向上、高炉改修による能力拡大など、国内での事業基盤を

強化したいと考えています。

当社は「利益成長」の実現のため、当社グループ粗鋼4,000万トン+ α 体制構築に必要な設備投資などに、3年間で1兆2,500億円の投入を決定しました。そして「グローバル・プレーヤー」を目指し、一段と規模を拡大していくためには、その原資となる利益を生み出し続けていくことが必要です。今年度の連結経常利益見通し6,000億円を必ず達成することはもちろん、さらに一段上のレベルを目指していきたいと考えています。

新日鉄グループの 企業価値の向上を図る

製鉄事業については、以下の3つの課題を解決したいと考えています。

第1の課題は、製造実力向上の活動を継続することです。製鉄所間の技術トランスファー、計画保全の充実による設備・操業トラブル削減、人材育成などを粘り強く実行し、当社の企業文化として定着させたいと考えています。

第2の課題は、鉄源を中心とした一貫能力向上対策、ならびに原燃料高騰への対応です。出銑増に向けた取り組みや、劣質原料の使用拡大・省エネルギー対策など、当社の「技術先進性」を活かし、あらゆる可能性に挑戦していきます。

第3の課題は、海外プロジェクトの早期実現とアライアンスのさらなる深化です。ブラジル・ウジミナスでの能力拡大、住友金属工業(株)・(株)神戸製鋼所、韓国

変革する」

新日本製鐵株式會社
NIPPON STEEL CORPORATION



ポスコ・中国宝鋼などとの連携強化、さらに北米・中国・ブラジル・タイ・インドなどでの事業化を推進してまいります。

製鉄事業以外のセグメントについては、好調な事業環境の中で、収益の一層の拡大と事業リスクの抑制を通じて、グループ企業価値の向上を図ります。

エンジニアリング事業については、過去最高水準の受注残を確保する中、各分野でのトップ3戦略の実現に向けた諸施策を着実に推進します。

都市開発事業については、市街地再開発、マンション建て替え、等価交換など、新日鉄都市開発の提案力および信頼感を活かした取り組みを強化します。

化学事業については、コールドケミカルおよび化学品事業における販売価格の改善、CCL事業の早期再構築を推進します。

新素材事業については、成長分野での事業創出、金属箔など大型投資の効果の発揮、太陽電池用多結晶シリコン新工場の円滑な立ち上げに努めます。

システムソリューション事業については、高付加価値事業への集中、業務標準化による基盤強化、ITサービス・鉄鋼ソリューション事業の強化に取り組んでまいります。

「変化を先取りし、自ら変革する」 新日鉄グループへ

昨年11月、作家の塩野七生さんと対談する機会に恵まれました。塩野さんの作家としての原点の一つである『マキアヴェッリ語録』の中に、「変わりやすい運命の波に呑みこまれない道は、時の流れと自分のやり方を合致させることである。これに成功した者だけが生き残ることができる」との記述があり、大変感銘を受けました。社員一人ひとりとともに、「常に敏感に変化を先取りし、自らを変革する勇気を持って」日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。

また安全と環境保全、コンプライアンスは、企業存続の大前提であり、社会と共生し信頼され続ける新日鉄グループを目指し、努力してまいります。

釜石において近代製鉄の礎が築かれてから150周年を迎える本年、先人の苦勞と偉大な歴史を振り返り、活躍の舞台を真に「世界」に拡大した「グローバル・プレーヤーとしての新日鉄グループ」の実現に向けて、私は社員とともに、全力で取り組む決意です。

本年が、皆様にとって、健康で幸せな年となりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。